

素人芸術家、大募集!!

みんなで参加してカルチャー・シティに

「私のまちに大好きなトシチャンがきて、この市民会館の舞台でうたった。あとで握手してお話したわ」とファンの女の子はいまも頬を紅潮させて語る。併設の公民館ではお母さんと子供たちが材料を持ちよってケーキを作っていた。広い公園風の広場には、子供たちが今日もいっぱい。「市民会館・公民館へ行くと仲間がいて楽しいよ」ここはまさにカルチャーセンターです。

●市民の創造活動、年々盛んに

「市民文化教室」が花盛り。手づくりを楽しみながら、高度な創造力、技術習得が必要なものもできました。それがかえって現代女性の意欲を高めるのでしょうか、各教室とも主婦たちに大人気です。例えば茶道、陶芸、籐細工、16ミリ映画制作、英会話教室など。

英会話教室の一環として横田基地将校夫人クラブとの「日米婦人交流事業」があり、米婦人に英語を教えてもらいその習い覚えた英語で日本の伝統芸能や茶道・生花等を教えています。この事業は若い主婦に大変好評です。

●一流演奏会も開かれます—文化施設の充実

市民の文化活動や交流の拠点として、市民会館、公民館本館、分館（2カ所）があり、利用者は年間延24万人を超えています。

なかでも昭和52年にオープンした市民会館は、内外の演奏会や古典芸能等の会場としても申し分ない施設を誇る大ホール、発表会、映画会等にピッタリの小ホール、リハーサル室、8つの集会室のある文化施設です。併設する公民館も多目的に使える各室や児童室、保育室、視聴覚室も完備し、身障者のための諸施設もきめ細かく配置されています。

広く市民に人気の図書館



婦人たちのカルチャー活動が盛ん(籐細工サークル)



●ふるさとの歴史や先祖の暮らしを知ろう

市立中央図書館に併設している「福生市郷土資料室」は無人による管理システムをはじめ、スイッチを押すと歴史に関する情報がとび出してくるスライドボックスなどの新しい工夫がいっぱい。常設

郷土芸能を披露するお母さんたち（市民文化祭）

展示コーナーのほかに、特別展示会やカルチャー教室（古文書の読解学習会、歴史探訪、民俗芸能講座等）、歴史資料収集・発行等、意欲的に取りこんでいます。

●読みたい本をコンピュータがたちまち調べてくれます！

市内には中央図書館、わかぎり分館、わかたけ分館があり、年間に1万2523人（市民の四分の一）が登録、年間に30万冊の図書が貸出されています。

蔵書数は中央図書館の11万7703冊（57年）をはじめ2分館合すると17万8080冊、ほかにレコード2431枚、カセットテープ704本があり、試聴コーナーはとくに若者に人気があります。

利用時間が午後と日曜日に集中するため、かねてより貸出業務のスピード化を検討してきましたが、58年6月1日より中央図書館ではコンピュータによる貸出返却業務に切り替えました。スピード化はもちろんですが、「読みたい本がいま誰のところへ行っていつ返却されるか」、あるいは「こういう資料が見たいがどんな本があるか」等までコンピュータがたちまち教えてくれます。

約10万冊の本がインプットされているため、分館からもリクエストして貸りられるシステムになっています。



日米の主婦たちが交流（フレンドシップサークル）、竹細工芸を見学